



## 製品の説明

- 「Cisco Unified Presence の概要」 (P.3-1)
- 「パブリッシャおよびサブスクリバ ノード」 (P.3-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager との連携」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 (P.3-2)

## Cisco Unified Presence の概要

Cisco Unified Presence は、ネイティブな標準ベースのデュアルプロトコル企業 Instant Messaging (IM; インスタント メッセージング)、および Cisco Unified Communications の一部としてのネットワークベースのプレゼンスを提供します。このセキュアで、スケーラブルで、管理の容易なソリューションでは、ユーザに企業内外への機能豊富な通信機能が提供されます。

Cisco Unified Presence は、シスコおよびさまざまなサードパーティ製の互換デスクトップおよびモバイル プレゼンス、IM クライアント、およびアプリケーションと緊密に統合されています。このようなクライアントは、インスタント メッセージング、プレゼンス、クリック ツー コール、電話制御、音声、ビデオ、ビジュアル ボイスメール、Web コラボレーションなど多数の機能を実行できます。

Cisco Unified Presence は、お客様およびパートナーにリッチなオープン インターフェイスによる柔軟性を提供し、各種のビジネス アプリケーション用の IM およびシスコのリッチなネットワークベース プレゼンスが可能になります。

## パブリッシャおよびサブスクリバ ノード

各 Cisco Unified Presence クラスタに最初にインストールするノードはパブリッシャ ノードと呼ばれます。クラスタ内のそれ以降のすべてのノードはサブスクリバ ノードと呼ばれます。サブスクリバ ノードは、それぞれパブリッシャ ノードと関連付けられている必要があります。サブスクリバ ノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールするには、その前にパブリッシャ ノードのシステム トポロジ内ですべてのサブスクリバ ノードを設定する必要があります。

複数ノード環境では、システム トポロジを設定し、新しいノードをインストールする順序が非常に重要です。インストールと設定の順序は次のようになります。

1. パブリッシャ ノードをインストールして設定する。
2. パブリッシャ ノードで、クラスタ内にサブクラスタとサブスクリバ ノードを作成する。
3. クラスタ内にそれぞれのサブスクリバ ノードをインストールして設定する。
4. パブリッシャ ノードで、必要に応じてサブクラスタ構成にサブスクリバ ノードを割り当てる。

システム トポロジの設定方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

## Cisco Unified Communications Manager との連携

Cisco Unified Presence は Cisco Unified Communications Manager と緊密に統合されています。Cisco Unified Presence のインストール時は、次の Cisco Unified Communications Manager 情報を指定する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名
- Cisco Unified Communications Manager の IP アドレス (Domain Name Service (DNS; ドメインネーム サービス) を使用しない導入環境のみ)
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのセキュリティ パスワード
- 標準 AXL API アクセス ロールのユーザ ID とパスワード

詳細については、「[必要なインストール情報](#)」(P.4-3) を参照してください。

## Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのシステム時刻

Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのインストール時は、外部 Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバを指定し、パブリッシャ ノードに正確なシステム時刻が設定されるようにする必要があります。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを単独の NTP サーバとして設定することを推奨します。つまり、クラスタ内のそれ以降のすべてのノードが Cisco Unified Communications Manager サーバから時刻を設定するようにします。

何らかの理由で Cisco Unified Communications Manager を NTP サーバとして設定しない場合は、最低 3 つの他の NTP サーバを指定し、それらのサーバが Stratum 9 以上となるようにする必要があります。ただし、インストール時にパブリッシャ ノードに設定した NTP サーバに関係なく、Cisco Unified Presence の管理ページでインストール導入後ウィザードの完了後には、Cisco Unified Communications Manager を使用してクラスタ内のすべての Cisco Unified Presence ノードの時刻が設定され、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の間の時刻の一貫性が確保されます。

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの NTP サービスが正常に機能していることを確認するには、[Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] > [設定 (Settings)] > [NTP サーバ (NTP Servers)] を選択するか、CLI コマンド `utils ntp status` を入力します。

## Cisco Unified Presence のライセンス要件

- 「[ライセンス モード](#)」(P.3-2)
- 「[ユーザおよびサーバ ライセンスの要件](#)」(P.3-4)

## ライセンス モード

Cisco Unified Presence の新規インストール直後から、デフォルトで 90 日間の試用期間が開始されます。この期間中は次のことを行えます。

- 組織に Cisco Unified Presence サーバのライセンスがなくても、このサーバを実行できる

- この組織内のユーザで、Cisco Unified Communications Manager にすでに設定されているユーザは、Cisco Unified Presence にアクセスが可能で、Cisco Unified Personal Communicator を必要なユーザ ライセンス (DLU) がなくても使用できるように設定できる

試用期間の終了後は、ユーザが Cisco Unified Presence の機能にアクセスできなくなります。

Cisco Unified Presence サーバの永続的な実稼動モードを有効にするには、サーバ ライセンス ファイルと必要なユーザ ライセンスをアップロードする必要があります。

#### 制約事項

- 90 日の試用期間：試用期間は最初に Cisco Unified Presence をインストールしてから 90 日後に期限切れとなります。期限切れまでの残り日数を確認するには、Cisco Unified Presence の管理ページおよび Real-Time Monitoring Tool の Syslog ビューアでライセンス警告メッセージを調べてください。試用期間の終了 30 日前からアラーム通知が開始され、試用期間の終了日に最後のアラームが発生します。
- リリースごとに 1 回の評価：Cisco Unified Presence のリリースごとに 1 回だけ試用できます。1 つのリリースを複数回試用することはできません。
- アップグレード不可：新規インストール後、Cisco Unified Presence サーバが評価モードで動作中は、Cisco Unified Presence で永続的な実稼動モードを有効にするまでアップグレードできません。
- SoftPhone クライアントがアクティブ化されない：Cisco Unified Presence サーバが評価モードで動作中は、Cisco Unified Personal Communicator のユーザがインスタント メッセージとプレゼンス情報を交換し、固定電話制御を使用することができます。ただし、試用期間中は Cisco Unified Personal Communicator のソフトフォンクライアント機能が Cisco Unified Presence でアクティブ化されません。

表 3-1 に Cisco Unified Presence のライセンス モードを示します。

表 3-1 Cisco Unified Presence のライセンス モード

ライセンス動作	Cisco Unified Presence ユーザ	Cisco Unified Personal Communicator ユーザ
評価モード		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザはライセンス ファイルをアップロードすることなく、Cisco Unified Presence を手動で起動できる。</li> <li>Cisco Unified Presence の管理ページの警告メッセージに、Cisco Unified Presence が評価モードであることが示される。Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) にも、ライセンスのアラームメッセージが表示される。</li> </ul>	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Presence を使用できる。Device License Unit (DLU) は不要。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Personal Communicator を使用できる。Device License Unit (DLU) は不要。</p> <p>評価モードでは、Cisco Unified Presence が Cisco Unified Personal Communicator のソフトフォンクライアント機能をアクティブ化しない。</p>

表 3-1 Cisco Unified Presence のライセンス モード (続き)

ライセンス動作	Cisco Unified Presence ユーザ	Cisco Unified Personal Communicator ユーザ
評価モード：期限切れ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザは Cisco Unified Presence の機能にアクセスできない。Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスがシャットダウンされ、有効なライセンス ファイルがアップロードされるまで再起動できなくなる。</li> <li>Cisco Unified Presence の管理ページの警告メッセージに、Cisco Unified Presence の評価モードが期限切れになったことが示される。Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) にも、ライセンスのアラーム メッセージが表示される。</li> </ul>	<p>管理者は、Cisco Unified Presence の管理ページにログインして有効なライセンスをアップロードできる。</p>	<p>ユーザは Cisco Unified Personal Communicator にログインできない。</p>
実稼動モード		
<p>管理者は有効なサーバライセンス ファイルをアップロードし、Cisco Unified Presence で実稼動モードを有効にする必要がある。</p> <p>(注) 試用期間の期限切れ前と後のどちらでも、Cisco Unified Presence にサーバライセンスをアップロードできる。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Presence を使用できる。Device License Unit (DLU) が必要。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Personal Communicator を使用できる。Device License Unit (DLU) が必要。</p>

#### 関連項目

Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) で、評価モードまたは評価期限切れモードで表示されるライセンス アラーム メッセージを参照してください。

## ユーザおよびサーバライセンスの要件

この項では、Cisco Unified Presence のユーザおよびサーバライセンスについて説明します。

- Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス
- Cisco Unified Presence サーバライセンス
- Cisco Unified Presence ソフトウェア バージョン ライセンス



(注) Cisco Unified Presence 8.x では準拠性を指向するお客様向けに、Cisco Unified Communications のライセンス構造に合わせて、エンドユーザライセンス契約が導入されました。

## Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス

プレゼンス機能は、Cisco Unified Presence ユーザごとに割り当てる必要があります。それにより、Cisco Unified Communications Manager の Device License Unit (DLU) が1つ消費されます。

各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で Cisco Unified Presence を有効にできます。ユーザに Cisco Unified Presence 機能を割り当てると、ユーザがアベイラビリティの更新を送受信できるようになります。ユーザに対して Cisco Unified Presence 機能を有効にしなかった場合、そのユーザにはアベイラビリティの更新が許可されません。

Cisco Unified Communications Manager にユーザ DLU をアップロードしてから、そのユーザに Cisco Unified Presence 機能を割り当てる必要があります。

ユーザが Cisco Unified Personal Communicator を Cisco Unified Presence でソフトクライアントとして使用している場合は、そのユーザを明示的に Cisco Unified Personal Communicator に割り当てる必要があります。Cisco Unified Presence の End User License Agreement (EULA) と同様、これによって Cisco Unified Communications Manager の DLU が1つ消費されます。

## Cisco Unified Presence サーバライセンス

Cisco Unified Presence サーバごとにサーバライセンスが1つ必要です。このライセンスでは、Cisco Unified Presence での Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスのサービス起動も対象となります。



(注)

これが適用されるのは、Cisco Unified Presence のパブリッシャノードを設定する場合、または Cisco Unified Presence で永続的な実稼動モードを有効にする場合のみです。

Cisco Unified Presence ソフトウェアは、1台のサーバとして導入することも、最大6台のサーバによるクラスタとして導入することもできます。各 Cisco Unified Presence サーバごとに個別のサーバライセンスを購入する必要がありますが、ライセンスファイルにはお客様にライセンス供与されるクラスタ内の Cisco Unified Presence サーバの台数が含まれているため、ライセンスをアップロードする必要があるのはクラスタ内の最初のノードだけです。

Cisco Unified Presence Release 8.x では、物理サーバの MAC アドレス、または VMware サーバのライセンス MAC 値を指定して、Cisco Unified Presence のライセンスを取得する必要があります。物理サーバに対して発行されたライセンスは、物理サーバにだけアップロードできます。同様に、VMware ライセンスファイルは VMware サーバにだけアップロードできます。

Cisco Unified Presence を VMware サーバにインストールする方法については、次の URL にある Cisco Unified Presence docwiki で「Virtualization」を参照してください。  
[http://docwiki.cisco.com/w/index.php?title=Virtualization\\_for\\_Cisco\\_Unified\\_Presence&oldid=71396](http://docwiki.cisco.com/w/index.php?title=Virtualization_for_Cisco_Unified_Presence&oldid=71396)

## Cisco Unified Presence ソフトウェアバージョンライセンス

ソフトウェアバージョンライセンスが必要になるのは、Cisco Unified Presence Release 8.x へのアップグレードを行う場合だけです。Cisco Unified Presence クラスタごとに1つのソフトウェアバージョンライセンスが必要です。ソフトウェアバージョンライセンスでは、アップグレード後に Cisco Unified Presence で Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスのサービス起動が可能です。アップグレードの詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence ライセンスの取得およびアップロード方法については、「[Cisco Unified Presence ライセンスファイルの取得とアップロード](#)」(P.6-5)を参照してください。

